

社会科の教材もすらすらと読める

予防注射

みんな並んで、保健室へ行きました。予防注射をするのです。内田先生が「良い子は痛くありませんよ。」とおっしゃいました。みんなきちんと並んで、番の来るのを待っています。とうとう僕の番になりました。僕は、胸がどきどきして来ました。目をつむって、手を出しました。ちょっと、ちくっとしたら、もう予防注射は終わっていました。「良かったね、これで病気にかからなくなるよ。」と、石井先生がおっしゃいました。

上は、一年生の、入学後、二、三か月たった頃の社会科の教材です。



社会科の教材にも漢字を使う

この時の新出漢字は「、」の付いた六つの漢字でした。

このプリントは第二時限に使いました。第一時限で、「予防注射」と黒板に書いて、「予防」の言葉の意義から、学校で行なう予防注射の意義についてお話をしておいての第二時限です。すでに言いましたように、初出で覚えさせようとは思いませんから、「予防注射」が読めることは期待していませんが、このプリントを配りますと、「予防注射。」と読む声があちこちから聞こえます。

さて配り終わると、指名読みさせます。新出漢字でも、「保健室」「待つ」などは、前後の関係でたいてい読みます。入学時には、一つの漢字さえ読めなかった子供たちが、わずか二、三か月で、この程度の文は、いきなり読ませても、かなりすらすらと読むようになります。

数人に指名読みさせてから、斉読させます。斉読といっても、私は、かなりのスピードで斉読させます。普通の話をする程度より遅くさせません。